

新鮮で安全な地元産の養殖魚を病院食に！ 近大養殖マアナゴを富山大附属病院へ提供 近大養殖サクラマスの提供に続く第 2 弾

近畿大学水産研究所富山実験場（富山県射水市）では、養殖したマアナゴを富山大学附属病院（富山県富山市）に病院食の食材として提供します。平成 26 年（2014 年）10 月 31 日（金）の夕食で「穴子の天ぷら」として入院患者様に提供されます。

この取り組みは、今年 9 月に提供したサクラマスに続き 2 例目となります。

【本件のポイント】

- 近畿大学水産研究所富山実験場が養殖した新鮮で安全なマアナゴを病院食として提供
- マアナゴには動脈硬化を伴う生活習慣病の予防効果があり、病院食に最適

【本件の概要】

富山大学附属病院では、毎日 400～500 人分の病院食に必要な食材を安定的に用意する必要があり、漁場の状況にかかわらず、新鮮で安全な地元産の養殖魚を提供できる富山実験場が協力することになりました。今年 9 月には富山実験場で養殖したサクラマスを同病院に提供しており、マアナゴを使った病院食も事前の試食会で好評価を得ています。

本学が養殖したマアナゴは、富山湾の水深 100m 層の清冷な海水を使用して育ち、臭みもなく良好な味と評判です。近年、動脈硬化を伴う生活習慣病が増加している中、予防効果がある多価不飽和脂肪酸（DHA/EPA）もうなぎ並みに摂取でき、病院食の食材として最適であると富山大学附属病院からも期待されています。

近畿大学としては、北陸地方唯一の本学の研究施設である富山実験場の魚を地元の病院に提供することで、これまで以上に地域貢献を図りたいと考えています。

【富山実験場でのマアナゴ養殖研究】

近畿大学水産研究所富山実験場では、アナゴの中で最も一般的に食用とされるマアナゴの陸上養殖を研究しています。平成 24 年（2012 年）に初めて成魚を出荷し、翌年には 2538 尾（567 kg）を出荷するまでになりました。マアナゴの天然漁獲量が減少していることから、親魚を養成して卵を採り、人工ふ化・飼育する完全養殖を目指しています。



マアナゴの養殖風景